

◎**試練の秋** 心身ともに**今が最もキツイ****東高3年生よ****負けるな、乗り越えろ！**

共通テストまで、70日となりました（11月6日現在）。3年生は、9月から10月にかけて、ほぼ毎週のように模試が続いて休みがほとんどありませんでした。「推薦型選抜」・「総合型選抜」の出願に向けた書類作成も重なった人も多く、心身ともにかなりきつかったと思います。指導を担当する先生方も、大変忙しい毎日となっています。11月は、10月に受験した模試の結果が続々と返却されてきます。厳し現実を突きつけられる人も多いと思いますから、精神的にかなりつらいことになるかもしれません。これは、本校生だけのことではなく、全国の本気で大学受験を考えている人は、現在、誰もが同じ状況にあり、受験生にとって、3年10～11月が、心身ともに最もきつい時期だと言えます。3年生の中には、これまでの人生で経験したことのない不安やあせりを感じている人も多いことでしょう。時間はまだまだたくさん残されています。今は思うような結果が出なくても、絶対にあきらめないでください。あなたの今のがんばりは必ず報われる日がきます。その時まで、今はじっと我慢です。心と体に適度な休息をとりながら、着実に前進していきましょう。

■**共通テスト70日前の戦い方**

残り70日になりましたが、あわてる必要はありません。まず、現在の学校の教材と10月に受験した模試を活用した弱点強化に力を注ぐべきです。そして、着実に実力を高めていきましょう。

1 **模試の事後復習を通して、弱点強化を図れ！**① **模試復習は受験勉強の基本であり最高の勉強法**

模試は結果の返却後には、「分野別、設問別の得点率」をよく分析し、どこが自分の失点のポイントになっているのか把握しておきましょう。そこが最重要の強化ポイントになるはずで、そこを強化することにより、総合点を上げることが可能になります。

② **読解力とは「推測力」過去の演習の記憶から推測**

共通テストでは「読解力」が重視されますが、膨大な量の問題文やデータを短時間に読解するためには、あらかじめ、今、何を問われているのかを、これまでの経験を基に推測しながら読んでいくことが必要です。見かけや形式は違っていても、過去に同様の問題を解いたことはないか、過去の経験

を当てはめることはできないかなどを、記憶を検索しながら読んでいくことが大事です。そのためにも、終わった模試等の問題を解き直し、解法に至るプロセスを理解していくことが重要となります。

2 **時間はまだ十分ある 苦手分野から逃げるな！**

まだ70日も残されていますから、苦手分野から逃げている場合ではありません。今すぐ、克服に向けて行動をおこすべきです。これだけの時間があれば十分に合います。何も手を打たず、そこが本番で出題されたならば、どれだけ後悔することか！自分一人で困っていないで、東高の先生方を有効に活用すべきです。そのために先生方はいるのです。

◇**2年生よ、次は君たちだ！**

東高の修学旅行は一か月スライドしたけれど…

**受験勉強開始の時が来た**

全国の進学校では、2年秋の「修学旅行」をもって本格的な受験体制に入っていきます。しかし、今年の本校2年生に関しては、コロナ禍の影響で修学旅行が、1か月スライドしていますから、その時期まで勉強を始められなかったら、全国の動きに乗り遅れることになり、大変心配です。

■**2年秋から「家庭学習時間」を増やしていこう****英数国**の基礎力を上げる

1 『3教科バランス』の良い者が成功する

3年生までは「英数国」の3教科を重点的に強化していくのが標準的な勉強法です。この3教科は、大学入試での配点が高く、内容も豊富なので、時間をかけて勉強しないと実力を高めることが難しいという特徴があります。ぜひ、今すぐに本格的な勉強を始めましょう。また、最終的に志望大に合格していく人は、英数国3教科の中に極端な苦手教科を持っていないという共通点があります。文系なら「英・国」、理系なら「数・英」の2教科の組合せを得意にできると、かなり有利になります。

2 **日々の授業は受験に直結する**

共通テストの「英数国」は、2年次までに学んだ内容が出題の中心となります。3年次には、問題演習を中心に復習を進めていくこととなりますが、3年夏までに基礎を固めておかないと、実戦的な問題演習を行うことができません。まずは、現在の授業とその予習・復習、課題や考査の反省などを大事にしましょう。それが、立派な受験勉強となり、大学受験に直結していくのです。

3 理・社は考查・模試の前後の復習を大事にする

『理系の理科』に関しては2年次からの積み重ねが重要

2年11月からの模試は、「理社」を加えた「5教科型」になりますが、あくまで、家庭学習は、前記のように、「英数国」の強化を最優先にすべきです。しかし、現実として、理社の勉強を3年から始めたのでは遅いのも事実です。

特に、理系の理科（2科目）に関しては、過去の入試結果の分析によると、理科が合否を分けるポイントになっているという報告があります。理系の人にとっては、共通テストに加え、国公立大2次試験、私立大試験等に理科が課されることが多いので、重要度が大きくなっています。3年次に実力をつけるためには、2年次からの学習が絶対に必要です。模試をきっかけに勉強を始めましょう。

特集 大学入試に関するQ&A② 私立大,推薦・総合型編

今回は、私立大入試と推薦型選抜と総合型選抜について解説します。

Q：私立大学入試のしくみは？ 何校受験できるのですか？

A： 私立大学の「一般入試」の場合、大きく分けて以下の3つの方法があります。

- ① 大学独自の入試を実施する方法
- ② 共通テストの点数を利用する方法
- ③ 共通テストの点数と独自試験の合計を利用する方法

①の大学独自の試験では、3教科以下で行われることが一般的で、記述式試験に加えマークシート試験を採用する大学もあります。また、同じ学部・学科の試験を、複数回に分けて行うことも一般的です。大学の本拠地だけでなく、仙台、郡山などで「地方受験」を行う大学も増えています。

②の「共通テスト利用入試」の場合、共通テストを受験するだけで、大学の合否結果が届くので、たいへん手軽な方法ですが、その分、高得点でないと合格は難しくなっています。

また、私立大学は、日程が重ならない限り、何校でも受験可能です。ただし、合格後は、一定期間内に、高額な費用を納入しないと合格が無効になる場合があります。ゆえに、受験校は、受験日と手続き締切日を考慮して計画的に選ばなくてはなりません。

Q：「外部英語検定」を利用する入試とはどのようなものですか？

A： 近年、大学入試の英語科目に替わる試験として、英検などの「外部英語検定」が注目されていて、外部検定を一般入試に利用する大学は年々増加しています。

外部検定の利用の方法としては、以下のようなものがあります。

- ①国公立大、私立大ともに、推薦型選抜・総合型選抜や入試の「出願資格」として用いる場合（例 英検準2級以上やCSEスコア〇〇〇点以上など）
- ②「得点換算」や「加点」に用いる場合

いずれにしても、高い英語能力を持つ生徒を優遇する傾向が強まっています。ゆえに、本校では、受験までに「英検2級」以上を取得することを勧めています。



Q：「推薦型選抜」とはどんな入試ですか？

A： 「推薦型選抜」には、「公募制」と「指定校制」の2つがあります。「公募制」は、どこの高校からも出願でき、「指定校制」は、大学から指定された特定の高校だけが出願できます。どちらも、原則として、「出身学校長の推薦」が条件の1つです。また、調査書の「評定平均（3年間の全科目の平均）」の基準があるのが主で、国公立大の場合、4.0以上が1つの目安になります。

選考方法は、国公立大の場合、「共通テストを課す方法」と「課さない方法」があります。両者ともに、「書類審査」と、「小論文・総合問題（英文読解、数・理に関する計算等を含む）、面接が課されることが主となります。面接では、志望動機や将来の目標などを具体的に説明することが求められ、さまざまな質問に柔軟に対応できるコミュニケーション能力が評価されます。大学によっては、「口頭試問（「英数理」などの基礎学力を問う質問）」も含まれます。

Q：「総合型選抜（旧AO入試）」とはどんな入試ですか？

A： 「総合型選抜」は旧「AO入試（アドミッション・オフィス入試）」で、「自己推薦」が基本です。

出願条件として、調査書の評定平均値の基準が無いことも多く、選考方法は調査書・志望理由書（エントリーシート）・活動報告書などの「書類審査」と「面接」が主です。また、大学の講義やセミナーに参加しその後にレポートなどを課すパターンや、小論文や基礎学力試験を実施したり、国立大学の中には、「共通テスト」の点数を利用したりする大学も増えてきています。

Q：どのような人が「推薦・総合型選抜」に向いているのですか？

A： 学業成績の評定平均が高いほど有利ですが、それに加え、自分がその大学で学びたいことが明確であるということが大事です。そして、自分の考えを、相手に的確に伝えることができるコミュニケーション能力や表現力が求められます。さらに、部活動や生徒会活動、ボランティア活動、学校外での各種の研修活動などで活躍してきた人も、自己PRの材料をたくさん持っているという点で有利と言えます。欠席の数が少ないことも大事です。

注 「推薦型・総合型選抜」は“デメリット”も大きい

安易な考えで受験してはいけない！

推薦型・総合型選抜で合格することは決して簡単ではありません。合格には、「志願理由書」の作成や、「面接・口頭試問、小論文対策指導」などを始め、さまざまな準備を綿密に行うことが必要です。そのため、最も実力を養成しなければならない3年の10～11月に、貴重な勉強時間が割かれてしまうという大きなデメリットがあります。さらに、不合格となった場合、精神的なショックで、一般選抜試験にも悪影響が出るということも考えられます。

こうしたリスクを伴うため、全員に勧められるものではありません。「早く合格を決めて楽になりたい」とか、「一回チャンスを増やしたい」などといった、安易な考えでこれらの試験を受験してはいけません。

自分にとって有利な試験であると判断でき、多少のことではくじけない精神的な強さを持つ人ならば利用する価値はあると言えます。

